



やまだ のどか
山田 和花さん
(空手・形)

小学1年生で全日本少年少女選手権大会準優勝。中学1～3年生のときには全国大会連覇。今年5月に出場した「アジアジュニア&カデット、U-21空手道選手権大会」のカデット(14～15歳)個人形で優勝。埼玉栄高等学校1年生・空手道部所属。剛柔流剛心会(若葉空手クラブ)所属。



舞台は世界



空手は身近なもの

「兄の影響を受けて3歳から始めました」。富士見市民センターの空手クラブ(道場)に入会したことが始まりでした。

「毎日稽古をしているので、空手をやらないと落ち着かない。幼い頃から常に身近にあつて、無くてはならない大切なものですね。空手には形と組手があり、私は形を選びました。競技としての組手は得意ではありませんが、形の上達には技の攻防が大事な要素なので、実際に相対しての間合いなど、技の意味を理解する上で、約束組手は

練習に取り入れてくれます」と話してくれました。

すべての情熱を

今は、部活と

道場の練習を掛け持ちしており、さらに休日は大会や遠征で休む時間はありません。

そのような中でも「学校に早く行って、筋トレやランニングなど、自主練習もしています。形には団体戦もあるので、部活のみんなと協力し、切磋琢磨しています。また、道場では師範の先生から細かな技術指導をもらえるので、ありがたいです。勉強時間が取れないのが、結構大変です(笑)」と、にこやかに話しながらも、空手にすべてを捧げる強い思いが伝わってきます。

空手の楽しさ

「陸上や水泳などと違い、タイムで勝敗が決まりません。人が判定する競技なので、自分の評価と異なることがあります。勝つためには、誰にでも評価してもらえないような形を打たなければなりません。なので、毎日同じ形を何度も繰り返し稽古



します。その成果を、試合で思いっきり出し尽くすことが気持ちいいし、楽しいです。注目を浴びるのが好きなので、大勢の人から見られると、より燃えますね」と熱く語ってくれました。

新たな挑戦

小学1年生で全国準優勝、中学1～3年生では連続の全国優勝、5月に行われたアジアの大会でも優勝と、輝かしい成績を残している和花さん。しかし、これからは上の世代の強い相手にも挑まなければなりません。「清水希容選手(全日本空手道選手権大会5連覇中の、国際大会でも数多くの金メダルを獲得する絶対的王者)と同じくらいまでレベルを上げて、世界で戦っていきたくです」と強い気持ちを見せてくれました。

世界へ

和花さんは、まだまだ成長の途上。強みである集中力と、家族の献身的な支えで、ただ一心に前を見据えて突き進みます。16歳になったばかりの彼女の世界挑戦は、もうすでに始まっています。

編集後記

今月号で取材した「水かけまつり」(p28-29参照)。相棒のカメラは防水機能が無いので、遠くから皆さんを撮影開始。あまりにも楽しそうなので、吸い寄せられるように少しずつ前進。気が付いたら、ど真ん中はずぶ濡れに!相棒は返事をしなくなりました…。まつりの様子を少しでも楽しんでいただければ幸いです(泣)ご意見・ご感想は秘書広報課広報広聴担当へ
✉10200001@city.tsurugashima.lg.jp



笑顔の天使



“痛かったよ”

やまなかえいた
山中瑛太ちゃん(3歳)

応募はこちら

